

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991400035	
法人名	社会福祉法人 平成福祉会	
事業所名	グループホーム ラシーク桂台	
所在地	山梨県大月市猿橋町桂台一丁目99番	
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年1月19日(火)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定期的に買い物、外食・馴染みのある場所、自宅等に外出をする機会を作り地域での暮らしが感じられ、また気分転換に繋げられるように支援しています。(令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛)  
 自分で出来る事については声掛けし意向の確認を行いながら調理・盛り付け・食器洗浄・洗濯物たたみ等、家庭で行われていた家事行為を職員と共に役割や意欲に繋げられるようにアプローチしています。家族面会時にも日頃の状況、体調の変化等をキーパーソンにお話しし対応の方向性のずれが出ないように心がけ、ご家族が来やすい雰囲気作りを事務室・ユニット共に意識し対応を行っています。また日頃の状況が分かり易いようホールやユニット内に写真を掲示したりブログ等を活用して情報の発信を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR中央線の最寄駅から車で5分程の高台にあり、住宅街の一角に位置する2階建ての建物である。見晴らしが良く、自然に恵まれた環境にある地域で唯一のグループホームである。本体の社会福祉法人は特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、放課後デイサービス等、富士東部地域の高齢者や障害児の生活を支える事業を展開している。利用者や家族のニーズを把握し、面会や外出の機会も多かったが、コロナ禍により面会制限や外出の自粛を行っている為、オンラインを活用してリモートによる面会をしたり、利用者の状況に応じて、感染対策とソーシャルディスタンスを守った面会の場を提供している。また、利用者の不安を軽減することに努め、理解を得られるような配慮を心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <b>現状は(参考項目:2,20)</b>	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度(コロナ禍以前) 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <b>現状は(参考項目:49)</b>	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが(コロナ禍以前) 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム ラシーク桂台

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		実践状況	外部評価
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)		
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念「しわあわせを共に」・介護方針「安心・安全・あなたらしく」を意識し入居者の情報共有と対応の振り返り・検討を昼礼、ケア会議、内部研修を通して行い入居者にとっての最善の対応が出来るよう取り組みを行っている	法人の経営理念「しわあわせを共に」・介護方針「安心・安全・あなたらしく」を意識し入居者の情報共有と対応の振り返り・検討を昼礼、ケア会議、内部研修を通して行い入居者にとっての最善の対応が出来るよう取り組みを行っている	法人の理念は事業者内に掲示し、グループホームとしては「思いやりを感じられる関係づくり」を目標に掲げ、常に相手の立場に立って考える支援を目指して、職員には資料を渡したり、会議や研修の際には理念を唱和して、職員間で共有し意識づけしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に関催される運営推進会議で、地域の民生委員の方からの地域での活動の情報提供や、ボランティアの受け入れを行ったりしている。平成28年8月からオレンジカフェを開催し地域の認知症高齢者、本人・家族等への支援が出来るようにしている。	定期的に関催される運営推進会議で、地域の民生委員の方からの地域での活動の情報提供や、ボランティアの受け入れを行ったりしている。平成28年9月からオレンジカフェを開催し地域の認知症高齢者、本人・家族等への支援が出来るようにしている。	自治会への加入はないが、エレベーター管理組合に参加し地域の一員として役割を担っている。現在は休止しているが、傾聴・踊り・マジック・歌等のボランティアは積極的に受け入れ、オレンジカフェの開催も定期的を実施し地域の高齢者と交流する機会を設けている。地域の方の好意で菊の鉢を頂き、利用者が楽しむことができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大月市の地域ケアシステム構築のための認知症ワーキングに参加し関係各所にグループホームに対する理解が得られるようアプローチしている。委託事業としてオレンジカフェを行う事により認知症についての情報発信を行える環境を作っている	大月市の地域ケアシステム構築のための認知症ワーキングに参加し関係各所にグループホームに対する理解が得られるようアプローチしている。委託事業としてオレンジカフェを行う事により認知症についての情報発信を行える環境を作っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で得た意見からサービスの振り返り、見直しや新たな取り組み等を検討、実施し事業所のサービス向上に役立てている	運営推進会議で得た意見からサービスの振り返り、見直しや新たな取り組み等を検討、実施し事業所のサービス向上に役立てている	通常は2か月に1回開催だが、現在は3か月に1回資料や要望意見書を会議のメンバーあてに配布。各フロアの会議や身体拘束に関する状況も個人情報に配慮した上で提出し、関わり方等について意見やアドバイスを受けている。利用者の意見は相談内容記録表で共有し対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な訪問・認知症ワーキングへの参加、オレンジカフェ・運営推進会議の開催等により、相互間の情報共有・連携・取り組みを行っている	定期的な訪問・認知症ワーキングへの参加、オレンジカフェ・運営推進会議の開催等により、相互間の情報共有・連携・取り組みを行っている	運営推進会議やオレンジカフェの実施、研修会等をおとして行政担当者と連携し協議や意見交換する機会が多い。また事業所の状況を伝え、アドバイスを受ける等相談しながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に行っているケア会議内の身体拘束解消委員会にて日頃の介護の振り返りを行い身体拘束についての検討・意識付けを行っている。内部研修の中で、身体拘束の研修を行い身体拘束の弊害や内容について説明し意識付けが出来るようにしている	定期的に行っているケア会議内の身体拘束解消委員会にて日頃の介護の振り返りを行い身体拘束についての検討・意識付けを行っている。内部研修の中で、身体拘束の研修を行い身体拘束の弊害や内容について説明し意識付けが出来るようにしている	毎月1回午後7時過ぎから8時半位の設定でケア会議を行う。身体拘束解消委員会で関わり方についての振り返り検討を行い、事故対策委員会でヒヤリハット・外傷発見等の記録を基に日々の介護状況について振り返るとともに再発防止やケア方法の検討をしている。昼夜の申し送り時に職員間で共有し、認識できるように確認したり2か月に1回の内部研修には全職員が参加できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での内部研修の中で高齢者権利擁護・身体拘束の研修を行い身体拘束の弊害や内容について説明し意識付けが出来るようにしている	施設内での内部研修の中で高齢者権利擁護・身体拘束の研修を行い身体拘束の弊害や内容について説明し意識付けが出来るようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	内部研修の中でも権利擁護の視点について分かり易く説明し理解が得られるようにしている。また成年後見人制度を利用している入居者の担当の司法書士から本人の状況についての内容確認を行い感じた事を伺い活用できる機会を作っている。	内部研修の中でも権利擁護の視点について分かり易く説明し理解が得られるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明時に内容についてのイメージや理解が得られやすいよう実例等を通して説明を行っている	重要事項説明時に内容についてのイメージや理解が得られやすいよう実例等を通して説明を行っている		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム ラシック桂台

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に対しては、日頃の関わりと年2回入居者アンケートを実施し意見・要望が言える機会を作っている。ご家族に対しては面会・受診付き添い・電話連絡時に気になっている事や不安に思っている事等を言いやすい雰囲気を作りコミュニケーションを多く取るようにしている。入居者・家族共に出た意見については早急に対応し信頼が築けるようにしている	入居者に対しては、日頃の関わりと年2回入居者アンケートを実施し意見・要望が言える機会を作っている。ご家族に対しては面会・受診付き添い・電話連絡時に気になっている事や不安に思っている事等を言いやすい雰囲気を作りコミュニケーションを多く取るようにしている。入居者・家族共に出た意見については早急に対応し信頼が築けるようにしている	入居者アンケートを基に利用者の意見や要望を聴く機会を設けている。家族には日頃から面会、受診、連絡の際に要望を聴きすぐに対応出来る事、検討が必要な事等内容に応じた対応をしている。利用者からは食事に関する希望が多くその都度対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っている昼礼、ケア会議の中で気付きや改善について意見を言う場があり日頃感じている事等を伺う機会を作っている。また、年2回職員を対象としたアンケートを実施している	定期的に行っている昼礼、ケア会議の中で気付きや改善について意見を言う場があり日頃感じている事等を伺う機会を作っている。また、年2回職員を対象としたアンケートを実施している	職員には気付きシートを配布し、随時受け付けている。内容に応じて検討しているが物品や備品については早急に対応している。ケア会議や申し送りの際に出た意見等についても検討し、年2回の職員アンケートを実施し、意見や相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員、個々の業務の中での気付き等を業務改善に早期の段階で繋げ意欲が持てるように配慮している。年1回取得したい資格、参加したい研修についてのアンケートを行い資格取得・研修参加へのバックアップを行っている、職員を対象としたアンケート等を実施し意見や評価がしやすい環境作りを行っている	職員、個々の業務の中での気付き等を業務改善に早期の段階で繋げ意欲が持てるように配慮している。年2回取得したい資格、参加したい研修についてのアンケートを行い資格取得・研修参加へのバックアップを行っている、職員を対象としたアンケート等を実施し意見や評価がしやすい環境作りを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の意向を把握しながら資格取得の研修参加、専門的な知識の向上等に繋がる施設外研修会への参加の希望をアンケートで行い希望者へのサポートをしている。また全介護職員を対象に年間計画に基づいた内部研修を行い介護技術、知識の向上が出来るよう取り組んでいる	本人の意向を把握しながら資格取得の研修参加、専門的な知識の向上等に繋がる施設外研修会への参加の希望をアンケートで行い希望者へのサポートをしている。また全介護職員を対象に年間計画に基づいた内部研修を行い介護技術、知識の向上が出来るよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加等を通じて職員が他事業所の職員と関わりが持てる機会を作っている。(認知症実践者研修・認知症リーダー研修等)管理者としては、大月市内の認知症ワーキングへの参加を通じて市内の事業所との情報共有、連携等により質の向上を考え向上に繋げる機会を作っている。	外部研修への参加等を通じて職員が他事業所の職員と関わりが持てる機会を作っている。(認知症実践者研修・認知症リーダー研修等)管理者としては、大月市内の認知症ワーキングへの参加を通じて市内の事業所との情報共有、連携等により質の向上に繋げる機会を作っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時にアセスメントを詳細に行い身体・生活状況等を把握しどのような事に困っているのかを時間を掛け確認している。本人が把握していない困難な部分についてもアセスメント、プラン作成時に検討しユニット職員と情報共有しながら安心して入居が出来る環境作りを行っている	面接時にアセスメントを詳細に行い身体・生活状況等を把握しどのような事に困っているのかを時間を掛け確認している。本人が把握していない困難な部分についてもアセスメント、プラン作成時に検討しユニット職員と情報共有しながら安心して入居が出来る環境作りを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み段階で現状の介護の状況について傾聴し困っている事や不安な事について時間を掛けてお話を聴き、関係作りが出来るようにしている。また記録として相談内容記録票に残し情報の共有が出来るようにしている。	入居申し込み段階で現状の介護の状況について傾聴し困っている事や不安な事について時間を掛けてお話を聴き、関係作りが出来るようにしている。また記録として相談内容記録票に残し情報の共有が出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にお困りごとの状況を詳細に聞き他のサービスで対応可能であれば、他のサービスについての大月市の地域生活資源マップで説明し情報提供している。	事前にお困りごとの状況を詳細に聞き他のサービスで対応可能であれば、他のサービスについての大月市の地域生活資源マップで説明し情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の生活歴・既往歴を把握し人柄・性格等を理解した上で、入居者に合った介護が提供できるように考え行動をしている。またユニット内での役割が持てるよう意向の確認を行い調理・家事等への参加を促している。	入居者の生活歴・既往歴を把握し人柄・性格等を理解した上で、入居者に合った介護が提供できるように考え行動をしている。またユニット内での役割が持てるよう意向の確認を行い調理・家事等への参加を促している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム ラシック桂台

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に声掛けし、ユニット内に行きやすい雰囲気作り・関わりや、ユニット内で過ごされている時にも職員から声掛けし、何か変化が生じている際には状況を細かに説明している。家族から情報、想い等を聴き本人の意向も踏まえて生活を支えていく関係作りを行っている。 <b>令和2年2月29日より面会制限を行っている</b>	面会の際に声掛け等、ユニット内に行きやすい雰囲気作り・関わりを行いユニット内で過ごされる時にも職員から声掛けし、本人の以前の状況等を伺い家族からの情報、想い等を把握し本人の意向も踏まえて生活を支えていく関係作りを行っている。 <b>令和2年2月29日より面会制限を行っている</b>		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や家族が気軽に来る事が出来やすい雰囲気作りを行っている。近隣のお店への買い物、馴染みの美容院・外食、自宅への外出の機会を作り近所の人や血縁者に会う事が出来る環境を作っている。 <b>令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している</b>	馴染みの方や家族が気軽に来る事が出来やすい雰囲気作りを行っている。近隣のお店への買い物、自宅への外出の機会を作り近所の人や血縁者に会う事が出来る環境を作っている。 <b>令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している</b>	美容院、通院、買い物、自宅への外出等利用者のニーズに沿った支援により、馴染みの場所や人との関係を継続していたが、コロナ禍の外出自粛で4か月に1回程度の訪問美容やソーシャルディスタンスをとった面会等関係を断ち切らないような工夫で対応している。天気や気候を見ながら事業所周辺の散歩をして気分転換している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声掛けを多く行い話題の提供や関わりが持てるように支援している。また居室で過ごされている入居者の方にも声を掛け孤立しないよう関わり意向確認をしながらリビングへの雑床を促し他人入居者との関わりが持てるように支援している	声掛けを多く行い話題の提供や関わりが持てるように支援している。また居室で過ごされている入居者の方にも声を掛け孤立しないよう関わり意向確認をしながらリビングへの雑床を促し他人入居者との関わりが持てるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気軽に連絡・訪問してくれるよう促し柔軟に相談等の対応をしている。また状況に応じて、転居施設・病院へ面会に伺い関係性の維持が出来るようにしている	退居後も気軽に連絡・訪問してくれるよう促し柔軟に相談等の対応をしている。また状況に応じて、転居施設・病院へ面会に伺い関係性の維持が出来るようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時に状況等を把握し本人に対しての意向確認を行っている。また入居後についても会話の中でニーズを把握し対応が出来る部分については柔軟に対応を行っている。意向確認が困難な場合には日頃の状況等に応じて昼礼・ケア会議等でニーズの検討と家族へも本人の今までの生活背景から考えられる意向を確認し対応の実施を行っている	アセスメント時に状況等を把握し本人に対しての意向確認を行っている。また入居後についても会話の中でニーズを把握し対応が出来る部分については柔軟に対応を行っている。意向確認が困難な場合には日頃の状況等に応じて昼礼時・ミーティング等でニーズの検討と家族へも本人の今までの生活背景から考えられる意向を確認し対応の実施を行っている	入居時のアセスメントを基に本人の意向を把握しているが、入居後の生活の様子や変化に気付きがある時は申し送り事項として職員間で共有したり、ドクターに相談する等して柔軟な対応をしている。また、意向確認が困難な場合には日頃の言動や表情から汲み取ったり、家族にも状況を伝えて相談し、出来るだけ本人のニーズに沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に本人に答えられる範囲内でこれまでの生活状況を聴き把握に努めている。また家族にもこれまでの暮らし等について伺いなるべく正確な生活状況の把握に努めている	アセスメント時に本人に答えられる範囲内でこれまでの生活状況を聴き把握に努めている。また家族にもこれまでの暮らし等について伺いなるべく正確な生活状況の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別毎に担当者を決め項目に沿った評価を月に1回行っている。また昼礼、ケア会議時に入居者の生活状況についての検討を行い、情報と対応の共有、統一、徹底が出来るようにしている	個別毎に担当者を決め項目に沿った評価を月に2回行っている。また昼礼、ケア会議時に入居者の生活状況についての検討を行い、情報と対応の共有、統一、徹底が出来るようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室毎に担当者を決め項目に沿った評価とプランへの反映が出来るよう昼礼時、ケア会議時での検討、計画作成担当者等のアセスメント・モニタリング、本人からの要望、家族との関わりの中から把握した要望・意向等を踏まえプランに反映できる仕組み作りをしている	居室毎に担当者を決め項目に沿った評価とプランへの反映が出来るよう昼礼時、ケア会議時での検討、計画作成担当者等のアセスメント・モニタリング、本人からの要望、家族との関わりの中から把握した要望・意向等を踏まえプランに反映できる仕組み作りをしている	入居時に行ったアセスメントを基に本人、家族の意向を反映したケアプランを作成し、入居後1ヶ月程度経過をみていく。管理者、計画作成担当者、担当職員等でケア会議を行いプランの見直しを行う。変更ない場合も6か月毎にモニタリングし本人、家族の意向を踏まえ現状に沿ったケアプランにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中から状況を把握している。昼礼時、ケア会議時に対応について検討し個別毎の改善提案やケアプランの見直し等にも活かしている	日々の記録の中から状況を把握している。昼礼時、ケア会議時に対応について検討し個別毎の改善提案やケアプランの見直し等にも活かしている		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム ラシーク桂台			
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者のニーズについて、検討を行い対応可能な事柄については早期に対応している。入居者にとつての満足に繋がる対応に配慮している(外食、自宅への外出、買い物、意向に応じて通院リハビリ等)令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している	入居者のニーズについて、検討を行い対応可能な事柄については早期に対応している。入居者にとつての満足に繋がる対応に配慮している(外食、自宅への外出、買い物、意向に応じて通院リハビリ等)令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で活用できるものについては積極的に活用しホームでの暮らしを受け入れその人らしく日々を過ごせるようにしている(買い物、付き添い、馴染みの美容院利用等)令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している	地域の中で活用できるものについては積極的に活用しホームでの暮らしを受け入れその人らしく日々を過ごせるようにしている(ドライブ、買い物、付き添い、馴染みの美容院利用等)令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・往診担当医との連携を密に行えるよう状況の変化が有った際には速やかに相談し受診、指示を頂き身体的な負担の悪化に繋がらない対応に配慮している。受診後の状況により、紹介状により地域の総合病院への受診に繋げている	かかりつけ医・往診担当医との連携を密に行えるよう状況の変化が有った際には速やかに相談し受診、指示を頂き身体的な負担の悪化に繋がらない対応に配慮している。受診後の状況により、紹介状により地域の総合病院への受診に繋げている	利用者15名のうち2名がかかりつけ医を受診し、13名が協力医療機関の医師の往診を受けている。また、訪問歯科による口腔ケアも受けている。かかりつけ医と往診医との連携を密にできるように状況に応じて相談し、受診に繋げている。また、紹介状により地域の総合病院とも連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療に入っている診療所の看護師と密に入居者の状況についての相談を行い状況に応じて早期に受診や指示がもらえるように対応を行っている	訪問診療に入っている診療所の看護師と密に入居者の状況についての相談を行い状況に応じて早期に受診や指示がもらえるように対応を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い、入院中は定期的に面会に行き入院後の状況把握が出来るように対応している。また病院内の連携室担当とも連携し状況の把握が出来るようにしている。定期的に市内・市外病院連携室を訪問し状況把握を行っている	入院時には情報提供を行い、入院中は定期的に面会に行き入院後の状況把握が出来るように対応している。また病院内の連携室担当とも連携し状況の把握が出来るようにしている。定期的に市内・市外病院連携室を訪問し状況把握を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、その時その場所において変化が見られるものであり、家族間においても考え方が異なるので、本人・家族の意向を尊重しGHとして可能な範囲での対応が出来るように配慮し対応している。(平成26年11月～12月に掛け看取りケアを実施)	終末期のあり方については、その時その場所において変化が見られるものであり、家族間においても考え方が異なるので、本人・家族の意向を尊重しGHとして可能な範囲での対応が出来るように配慮し対応している。(平成26年11月～12月に掛け看取りケアを実施)	入居時に重度化や終末期についての説明はするが、その時々状況に応じて本人、家族の意向を確認しながら対応している。これまで看取りを行った経験があり、医療関係者と事業所の連携はとれている。又、職員の体制もできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修の救命講習に参加している	外部研修の救命講習に参加している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	概ね月に1回避難訓練を行い避難についての手順確認を行っている。また飲料水・お米等の備蓄を行っている。地域との協力体制については運営推進会議でも話し合いをしておりお互いに協力しあえる関係作りを深めている。また地域の消防団の方と連絡が取れる体制を作り状況に応じて支援を頂く事が出来る。	概ね月に1回避難訓練を行い避難についての手順確認を行っている。また飲料水・お米等の備蓄を行っている。地域との協力体制については運営推進会議でも話し合いをしておりお互いに協力しあえる関係作りを深めている。また地域の消防団の方と連絡が取れる体制を作り状況に応じて支援を頂く事が出来る。	毎月、主に火災を想定した避難訓練を実施し、消火器の操作や避難経路について全職員が把握できるようにしている。利用者も訓練時には職員の誘導により避難場所に移動する訓練をしている。2階フロアの利用者はテラスに一時避難して救助を待つ方法が良いとの消防署の助言を受けている。備蓄もあり、地域との協力体制もできている。	毎月避難訓練を実施しているが、火災想定が主になっているので、職員数が少ない夜間想定をはじめ地震、停電、土砂災害等の訓練についても検討して取り入れることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に行っている昼礼・ケア会議時に対応について検討を行いプライバシーの尊重や対応について振り返り、検討を行っている。また内部研修の中でも「接遇」についての研修を実施している	定期的に行っている昼礼・ミーティング時に対応について検討を行いプライバシーの尊重や対応について振り返り、検討を行っている。また内部研修の中でも「接遇」についての研修を実施している	昼礼やミーティング、ケア会議等で利用者の尊厳やプライバシー保護について実践されているか振り返る機会を持っている。利用者の呼称は基本は「さん」付であるが、利用者本人や家族の希望により柔軟に対応している。トイレ誘導の声掛けや入浴時の同性介護等は利用者の意向に配慮している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム ラシック桂台**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け・日常会話の中で意思決定や伝達が出来やすい雰囲気・言葉掛けに配慮している。状況の理解が困難な入居者の方についても、入居者の方の意思の尊重が出来るよう関わり方の工夫もやっている(選択式の声掛け等)	声掛け・日常会話の中で意思決定や伝達が出来やすい雰囲気・言葉掛けに配慮している。状況の理解が困難な入居者の方についても、入居者の方の意思の尊重が出来るよう関わり方の工夫もやっている(選択式の声掛け・ホワイトボード活用等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛け・日常会話の中で意向や想いを把握し入居者の意向に沿った対応に配慮している。強すぎるディマンドについては状況を説明しながら本人が状況を受け入れやすい説明を行っている。また日々の中に役割が出来るよう支援を行っている。	声掛け・日常会話の中で意向や想いを把握し入居者の意向に沿った対応に配慮しているが、強すぎるディマンドについては状況を説明しながら本人が状況を受け入れやすい雰囲気作りを行い支援に配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣服、オシャレをする事に対する意識が持てるよう、身だしなみにについての声掛けを行っている。また好みの服が着られるよう定期的に衣服を買いに行く機会を作っている。屋礼・ケア会議時に、衣服購入についての情報共有を行っている。また家族に対しても相談を行い好みの洋服を持ってきてもらったりしている	季節に合った衣服、オシャレをする事に対する意識が持てるよう、身だしなみにについての声掛けを行っている。また好みの服が着られるよう定期的に衣服を買いに行く機会を作っている。屋礼・ケア会議時に、衣服購入についての情報共有を行っている。また家族に対しても相談を行い好みの洋服を持ってきてもらったりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い出し・調理・盛り付け・食器洗浄等、に対して意向確認を行いながら参加を促し役割を持ってたり食事に対する意欲が持てるように支援している。預り金にて嗜好に合った物を個人買いして提供を行っている	買い出し・調理・盛り付け・食器洗浄等、に対して意向確認を行いながら参加を促し役割を持ってたり食事に対する意欲が持てるように支援している。預り金にて嗜好に合った物を個人買いして提供を行っている	業者から食材を購入し、事業所の厨房で調理している。事前に調整して変更し利用者の希望や季節に応じたメニューの提供をしている。調理、盛り付け、食器洗い等、利用者も共に行い役割を担ってもらいが負担にならないように配慮している。年2回アンケートを取り利用者のニーズに応えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェック表に記入し情報共有が出来るようにしている。業者から食材を入れている為、必要栄養量に沿った献立により栄養バランスが取れるようにしている。嗜好品等の提供、食事形態の変更・代替え食により安定した摂取量が摂れるよう支援を行っている	毎食の食事・水分摂取量のチェック、嗜好品の購入、食材納入業者の献立活用等を行っている。一人ひとりに合わせた食事形態の変更、代替え食提供を行っている。栄養量が低い方については、医師と連携し補助食品の提供に繋げている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に口腔ケアを行っている。また訪問歯科利用者については、歯科医師・歯科衛生士による口腔ケア対応・指導もある為、状況について相談し、状態に合った対応が出来るようにしている	定期的に口腔ケアを行っている。また訪問歯科利用者については、歯科医師・歯科衛生士による口腔ケア対応・指導もある為、状況について相談し、状態に合った対応が出来るようにしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄リズムを把握しながら適時にトイレ誘導、介助が出来るようにしている。また排泄状況によりオムツ・パッド・紙パンツの変更、トイレ・PTトイレでの対応等を屋礼、ケア会議時に検討している。またトイレでの排泄支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄リズムを把握しながら適時にトイレ誘導、介助が出来るようにしている。また排泄状況によりオムツ・パッド・紙パンツの変更、トイレ・PTトイレでの対応等を屋礼、ケア会議時に検討している。またトイレでの排泄支援を行っている	オムツ、紙パンツ、パット等個々の方に合ったものを使用しているが、出来るだけトイレでの排泄をするようにチェック表を使って誘導している。夜間の排泄も含めて、屋礼やケア会議で協議、検討し利用者ひとり一人のケアに繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄リズムを把握し水分摂取の促しや腸の運動を高める為にも活動が必要な事を声掛けし促している。また状況(便が硬い等)に応じては往診・受診時に主治医に相談し緩下剤等の内服処方・調整を行ってもらい円滑な排便に繋がられるようにしている	排泄リズムを把握し水分摂取の促しや腸の運動を高める為にも活動が必要な事を声掛けし促している。また状況(便が硬い等)に応じては往診・受診時に主治医に相談し緩下剤等の内服処方・調整を行ってもらい円滑な排便に繋がられるようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状況や本人の意向を踏まえて入浴日をずらす等の対応を行っている。時間帯の自由度についてはシフトの中で勤務者が多い時に夜間浴を促してみたり、足浴の実施をしたりしている	身体状況や本人の意向を踏まえて入浴日をずらす等の対応を行っている。時間帯の自由度についてはシフトの中で勤務者が多い時に夜間浴を促してみたり、足浴の実施をしたりしている	ひとりの方が平均週2回、午後1時半から3時半の間に入浴している。希望があれば個人用のシャンプーを使ったり、同性介護等に配慮している。入浴を拒否する場合は日や時間帯、職員を変える等して利用者が入浴を楽しめる工夫をしている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム ラシーク桂台**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況に応じて寛げるようにソファ等への座り替え状況に応じて、ベッドで休む時間を作るなど対応を行っている。昼夜逆転等が見られ夜間不眠がある方については日中の関わりを増やし、足浴や日光浴等を行い安眠に繋げられる対応を行っている	身体状況に応じて日中についても、負担なく寛げるようにソファ等への座り替え、状況に応じて、ベッドで休む時間を作るなど対応を行っている。昼夜逆転等が見られ夜間不眠状態の入居者の方については日中の関わりを増やし夜間安眠が出来るよう活動を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服が処方された際には、受診の状況・お薬説明書その都度差し替え内服についての理解が出来るようにしている。	内服が処方された際には、受診の状況・お薬説明書その都度差し替え内服についての理解が出来るようにしている(内服の状況によりスプーンでの介助、錠剤の粉碎、トロミの活用等行い、確実に内服が出来るようにしている)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者・家族のニーズに応じた支援、趣味活動、意向を確認し調理や洗濯物たたみ等役割が持てる機会を作っている。ボランティアの方による紙芝居・歌の機会なども作っている。外出・外食の機会を作り気分転換が出来るように対応している。	入居者・家族のニーズに応じた支援、または日頃の状況、残存機能の状態を見ながら趣味活動が出来る機会を作っている。またボランティアの方による紙芝居・歌の機会なども作っている。また外出・外食の機会を作り気分転換が出来るように対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるよう支援している	以前住んでいた場所や馴染みの場所(美容院等)、行った事がない場所等に行き気分転換が出来るように支援している。また希望ある物の買い物に行く支援もしている。令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している。	定期的なドライブ・外出に行く機会を作っている。以前住んでいた場所や馴染みの場所、行った事がない場所等に行き気分転換が出来るように支援している。また希望がある物の買い物・買い出しに行く機会も作っている。令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している	買い物、ドライブ、外食、花見等外出の機会を作り楽しんできたが、現在はコロナ禍により外出は自粛している状況である。天気の良い日には事業所周辺の散歩をしたり、2階のテラスや1階のウッドデッキで外気浴をしたり、お茶の時間を持つ等利用者の気分転換や楽しみになるようなケアを心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	定期的にお金を持つ機会を作り支払いが出来る入居者については、預り金を渡し支払いをもらったりお金に対しての意識が持てるように支援している。令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している	定期的にお金を持つ機会を作り支払いが出来る入居者については、預り金を渡し支払いをもらったりお金に対しての意識が持てるように支援している。令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の希望がある場合には、便箋・ハガキ・切手等の購入の支援、手紙記入後の投函、郵送の支援を行っている。電話については希望が有った際に利用が出来るように対応を行っている(事務所等)	手紙の希望がある場合には、便箋・ハガキ・切手等の購入の支援、手紙記入後の投函、郵送の支援を行っている。電話については希望が有った際に利用が出来るように対応を行っている(事務所等)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームらしき日常生活の場として安心して寛げる環境・雰囲気作りを行っている	グループホームらしき日常生活の場として安心して寛げる環境・雰囲気作りを行っている	室内の清潔を心掛け、職員が清掃している。壁面には利用者の作品や写真等が掲示され、日頃の生活の様子が窺える。2階のテラスからの展望が良く、山々や木々の色合いから季節を感じることができる。1階はウッドデッキから外に出て畑作りをしている。広い窓からの採光が良く、居室や廊下、ホール等が明るい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの活用(1~3人掛け・複数人掛け)を行い思い思いに過ごせる環境作りに着目し配置等の工夫・検討を行っている	ソファの活用(1~3人掛け・複数人掛け)を行い思い思いに過ごせる環境作りに着目し配置等の工夫・検討を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの使用の制限をしていない為、家族・本人の意向に沿った物を持ち込めるように対応を行っている(仏壇・イス・以前から使用していた寝具等)	持ち込みの使用の制限をしていない為、家族・本人の意向に沿った物を持ち込めるように対応を行っている(仏壇・イス等)	全室洋室でベッド、エアコン、洗面台、タンス、クローゼットは備え付けてある。習字、写真、書物、テレビ、テーブル、椅子等が配置され、個々の利用者の趣味や嗜好を活かした居室になっている。各室からの見晴らしが良く、雰囲気は明るい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能の活用、身体状況の変化に合った物品の導入を行っている。また昼礼・ケア会議等で対応についての検討・情報共有を行い日常生活行為の維持・拡大、日常の中で役割を持つ事が出来るよう検討・実施・評価を行っている。	残存機能の活用、身体状況の変化に合った物品の導入等を検討している。また昼礼・ケア会議等で対応についての検討・情報共有を行い日常生活行為の維持・拡大が出来るようにしている		